



令和6年2月1日

福岡県内経済情勢報告

令和6年2月

財務省福岡財務支局

〔問い合わせ先〕

財務省 福岡財務支局 経済調査課

電話 092-411-9038

福岡県内経済情勢報告（令和6年1月）

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

（注）6年1月判断は、前回5年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較
----	-------------	------------	------

個人消費	緩やかに回復している	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

設備投資	5年度は増加見込み	5年度は増加見込み	→
企業収益	5年度は増益見込み	5年度は増益見込み	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	→
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している」

百貨店販売は、ラグジュアリーや化粧品が好調なことに加え、インバウンドの増加が売上を押し上げ、前年を上回っている。スーパー販売は、買い控えが見られるものの価格転嫁の浸透もあり前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、人流増加やインバウンドの回復により前年を上回っている。乗用車販売は、国内向けの生産増加により納期が改善しており前年を上回っている。ドラッグストア販売は、日用品等が好調のほか、新規出店の効果もあり前年を上回っている。家電大型専門店販売は、気温の高い日が続いたため冬物商品の動き出しが鈍く前年並みで推移している。ホームセンター販売も、同じ要因により前年を下回っている。旅行取扱高は、さらなる人流回復により引き続き国内外への旅行が増加している。

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械の自動車は、供給制約の影響が緩和されたことにより、高水準での生産を維持している。鉄鋼は、自動車向けなどが回復基調であるが、建築資材の需要などが伸び悩んでいることから横ばい圏内で推移している。電子部品・デバイス、自動車メーカー向けの生産が増加しているが、パソコンやスマートフォン向けの生産が減少している。

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。新規求人数は前年を下回っている。

■ 設備投資 「5年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年10-12月期

5年度は、製造業は前年比 25.5%の増加見込み、非製造業は同 12.3%の増加見込みとなっており、全産業では同 15.1%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「5年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年10-12月期

5年度は、製造業は前年比 16.3%の増益見込み、非製造業は同 20.3%の増益見込みとなっており、全産業では同 19.2%の増益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数で見ると、持家、貸家及び分譲住宅が減少していることから前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を上回っている」

輸出(円ベース)は、前年を上回っている。なお、輸入(円ベース)は、前年を下回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(5年10-12月期)の景況判断BSIで見ると、5年10-12月期は、「上昇」超となっている。先行きについては、6年1-3月期は、引き続き「上昇」超の見通しとなっている。